

きを置こうとするのである。

だから第4には、面接の場面の中での青年の反省と転換とを重んじる。従来の指導では、面接の場面ではかれの反省と転換とに役立つような刺激を与えるだけで、本人は面接を終ったあとで、言われたとおりに決心することが期待されたのであるが、新しい方法では、その場で自主的な転換が行なわれるのである。

非指示的助言はこのようにして、指導者に対する敵対感情を防ぎ、青年が自分で考え出した目標や行動を実行することに、その長所があるのであるが、これに対してはまた短所を指摘する者もある。たとえば指示的助言にあっては、あらかじめ生徒の問題とその原因とが精細に追求され、対策の予見がじゅうぶん吟味された上で助言が与えられるのに対して、この方法ではいわゆるブツケ本番であって生徒の事例的研究が薄弱であるから、助言が皮相的になりやすいこと、あるいはこの方法がどんなタイプの青年にも適用されるかどうか、すでにかなり悪化しているツムジまがりの者など

に効果があるかどうかなどについては、まだ批判の余地があると言う者もある。

また人格の発達には、感情的な因子だけでなく、知的因子のはたらきをもっと参加するものであるという立場から、助言は、感情的・衝動的因子とともに理性的・知的因子の両者を顧慮してなされなければならないという主張もある。実際に青年は、情緒的に不安定であるから適応異常を来たすのか、それとも適応異常があるから、それに伴って情緒的に不安定になるのか、それはどちらが原因で、どちらが結果であるかなどと、いちがいに決めることはできないものである。

そこで、指示的助言と非指示的助言とは、問題によって、また青年の性格などの条件によって、両者を折衷して用いるべきであると考えられる。実際には、非指示的助言は、問題の最初の段階に用いるのが適当であろう。そのあとは両者を併用して、両者の長所を生かすようたえず注意を配りながら、効果を高めるくふうがなされるべきであろう。(東京学芸大学教授)

編集デスク <16>

アメリカで最も大きな医書出版社の Saunders 社の医学辞典としてその名が全世界にとどろいているものに Dorland's Medical Dictionary がある。10万余語を収載しており、1600頁の大冊で原書は5千円である。医学書院では Saunders 社に交渉してこの辞典のリプリント版を出した(写真)。原書と紙質・装幀もおとらずに、その値段は約半分の3千円であるから、よく売れている。

国内に売れるばかりでなく、中国や東南アジアなどの広い地域に売れている。内容が権威を持っているばかりでなく、その値段が安いから売れ行きの良いのは当然のことともいえる。この話がまとまるまでにはいろいろの経緯があるが、医学書院の医書出版社としての実力と販売力が原出版社たる Saunders 社に十分認識されたためであらう。各社の垂

詢的であった Dorland のリプリント版が成立したのは Saunders 社の会長夫妻が昨年医学書院を訪れた時の話が契機となっているものであるが、ことは成る時に成ったのではなく、それを成立させる基盤がものをいったということができよう。

昨年私がフランクフルトの書籍見本市に参加した時、Saunders 社の

Dorland 辞典の リプリント版 ——長谷川 泉——

スタンドを訪問し、その時にはまだリプリント版は完成してはいなかったが、印刷の一部抜きや装幀の見本などはできていたから、それを見て大層よい出来だと話題になった。リプリント版としては出来すぎぐらいに立派なものが出来たことを認められて大いに面目をほどこした。果たせるかな、リプリント版が完成して

国内ばかりでなくアジア地域の市場に出まわると評判がよい。

このほど、Saunders 社の国際部門のマネジャーが来社したが、話題はこの Dorland のリプリント版をめぐってはすんだのである。

Dorland の辞典のリプリント出版をめぐって Saunders 社と医学書院の事業提携は深められたが、さらに今後も発展して良書の企画が進められてゆくことになる。科学の世界では、しだいに国境がなくなってゆく方向にある。すぐれたもの、最高のもの、最新のものが追求されてゆくことになる。勝負がはっきりと目に見える自然科学の世界は、文化科学の世界とはその点いささか違うようである。

